



第5のクラスターが新治の第3に、第3が第3に対応している。さらに、新治の右から第2、第4のクラスターと、豊島の右から第2、第3のクラスターにはいわゆる環境項目と直接関係の無い語の多いクラスターが出現していることに注目すべきであろう。また、両地区で環境-公害、静かさ-騒音が別のクラスターに属していることが、前報<sup>1)2)</sup>の花畑の場合と同じく指摘される。

2元クラスタリングにより、回答者のクラスター  $g_i$  を縦に、連想語のクラスター  $h_j$  を横に配置して、それらのクラスターが定める長方形  $c_{ij}$  を描いたものを Fig.1 に示す。ここで、(クラスター  $g_i$  の人数)  $\times$  ( $h_j$  の語数) で  $g_i$  の回答者が  $h_j$  の語を連想した総数を割った商も  $c_{ij}$  で表す。この図ではデンドログラムの主要な構造が分かるように工夫した。即ち、類似度の増加に対応して、デンドログラムの枝分かれが生じたレベルに対応して、クラスター-間の仕切り線を、回答者のクラスターでいえば、クラスター-番号の脇に左から右へ順次入れた。図中で、連想頻度の高い語を多数含む  $h_5$  が、多くの回答者クラスターに属する人々によって、高い頻度で連想されていることが分かる。

§3 結 言

本調査法は、回答者の意識の拡がりを、調査者の想定の枠組にとらわれずに分析することを可能にするものであり、また、語のクラスター-をを観察することによって、語の集まりとしての概念を見出すことができる。

文 献

- 1) 大井紘、勝矢淳雄、宮本定明、阿部治、中山和彦：第40回本講演会概要集第2部、889/890(1985)
- 2) 大井紘、勝矢淳雄、宮本定明、阿部治：国立公害研究所研究報告第88号225/240(1986)
- 3) Miyamoto, S., K. Nakayama: IEEE Trans. System Man & Cybernetics, vol.SMC-10, 899/903(1980)
- 4) 宮本定明：計量書誌学統計処理パッケージの作成、昭和58年度科学研究費報告書(1984)

凡 例

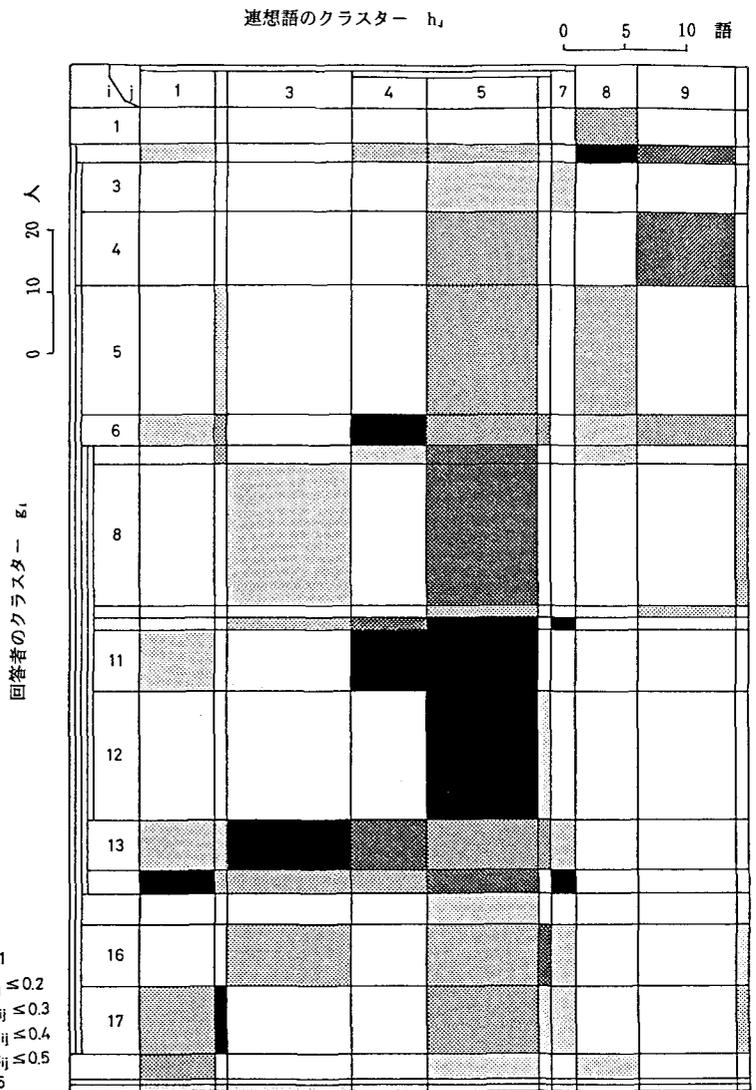
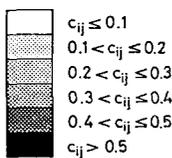


Fig. 1 自由連想の2元クラスタリング (豊島)